



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

檜葉町公民館訪問・社会教育研修会（6/19）

檜葉町公民館訪問・社会教育研修会の概要

日時 令和7年6月19日（木）13:30~15:00
場所 檜葉町コミュニティセンター
参加者 檜葉町…6名 大熊町…1名 富岡町…2名 相双教育事務所…3名 計12名

公民館訪問(13:30~14:15)

【檜葉町からの報告】

1,社会教育の推進

年3回の社会教育委員会が、しっかり行われている。

2,青少年事業

令和6年度は町をあげて成人式を開催した。今年度も開催予定。

地域全体でのお祝いが、ふるさとづくりにもつながっている。

3,社会教育事業

「檜葉市民大学」や「芸能発表会」、「東大教室@檜葉」などが、生涯学習の特徴的な取り組みとして挙げられている。今年度は、東京大学の学生に協力していただき、子ども向けの「科学教室」を新たに行う予定。町の職員が、多方面で個々の才能を発揮している。

4,社会体育事業

広野町と合同開催したハーフマラソンが1500人近くの人々を呼び込み、地域の活性化に貢献した。

5,プロスポーツチームの地域振興事業

プロバスケットボールチームとの連携が、地域振興及びスポーツのアピールにつながった。

課題：「多種多様な民間教室等が存在する現代における公民館事業の在り方とは」

○公民館も民間の教室も、住民の方々が学んでいくという大きな目標は同じ。

☆公民館講座の特徴☆

1,参加者相互の関わりあいができる

グループ学習など集団でコミュニケーションを取りながら学習する機会が多く、参加者一人一人のやり方、考え方、個性などが講座に反映され、参加者が講座、学習をつくっていくことができる。

2,学習が地域に還元される

学習したことを個に還元するばかりではなく、その学習を通して得たものを地域や地域の人たちに還元する。それが、地域の文化や社会を創り、まちづくりに役立っていく。

3,自分で主体的に学ぶようになる

自ら考え、自らの地域をつくっていく主体を育むのが重要な目的。

◎ 公民館の学びでも「対話」が大切である。社会教育は相手や仲間がいることが大前提で、個人だけではなく、お互いが成長していくことが求められる。公民館講座を通して、つながりをつくり、ふるさとづくりを進めていきたい。



檜葉町コミュニティセンター



公民館訪問の様子

社会教育研修会(14:15~15:00)

課題：「現代における社会教育と生涯学習の担うべき役割とは」

○社会全体での課題

- ・家庭や地域における教育力の低下
- ・学習意欲の低下
- ・基本的な生活習慣が身に付いていない
- ・体験活動や読書活動が不足している
- ・学力や体力、コミュニケーション能力の低下

子どもだけではなく、大人にも当てはまります

○これからの社会教育が目指す方向性は

- 1,いくつかの小規模なグループ・サークルによる、身近な活動に参加するようになる。
- 2,いつでもどこでも誰とでも、またどのような内容でも自由に情報の収集・編集・発信が可能となる。
- 3,既存の序列的な関係を超える、協働的で対等な関わり合いが生まれやすくなる。
- 4,多くの課題が相互に関連付けられるも、整理されないまま、課題解決に向けて「自分のできることをする」という形でかかわれるようになる。
- 5,居場所や対話、家庭、職場ではないサードプレイス（第3の居場所）が重要になる。公民館が孤独の解消、地域の活性化、ストレスの軽減、出会いの場として機能する。

○研究協議（付箋を用いて話し合いました）

1.個人の学びを地域のために役立てていくためには？

【すでに行っていること】

- ・各講座で学んだ住民の方々が、病院や老人ホームでの成果発表を行っている。学んだ住民も訪問される側の住民も、元気になっている。
- ・ハーフマラソンの時に、自主的にスコップ三味線を演奏して、沿道で応援している。
- ・学んだことを、放課後子ども教室で教える。（書道講座の参加者がすでに実施している）
- ・市民大学の卒業生が、教授として次世代の講師になり、講座を引き継いでいく計画がある。
- ・講座開設の上限を設けておき、以降はサークル化していく。

【さらにできそうなこと】

- ・書道講座の受講生が、各種イベントの垂れ幕等を作成する。
- ・他の自治体と共同の発表会を開催したり、お互いのイベントに参加したりしながら、相双地区としての交流を広げていく。
- ・歴史講座で学んだことを、子どもたちに還元していく。



研究協議の様子①

2.新しい講座を立ち上げるとしたら

- ・親子料理講座 ・寺子屋 ・ものづくり関係 ・小学校の算数講座 ・自然体験講座
- ・語学講座 ・安心安全講座 ・博物館の学芸員による講座 ・その自治体ならではの講座



研究協議の様子②

3.今後社会教育や生涯学習は相双地区でどんなことができるか

- ・もともとの住民と移住者が共に創る講座を通して、新たなつながりを築いていく。
- ・それぞれの町のエリアを飛び出して、他の地域を知る試みができる。
- ・コミュニティ再建の一步になる。
- ・社会教育・生涯学習のきっかけ作りができる。⇒継続させたい。
- ・社会教育・生涯学習の担い手づくりができる。
- ・キーワード：「可能性の窓口」「生活（コミュニティ）拠点」

今回は、3つの自治体で話し合えたので、広い視点で研究協議をすることができました。受け入れてくださった檜葉町の皆様、参加して下さった大熊町、富岡町の皆様、ありがとうございました。今後も、相双地区のみなさまの公民館訪問への参加をお待ちしております。

